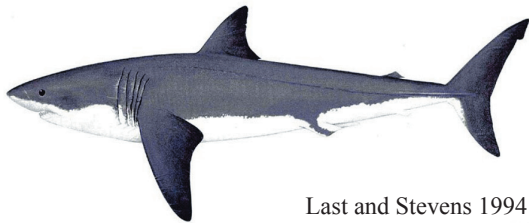
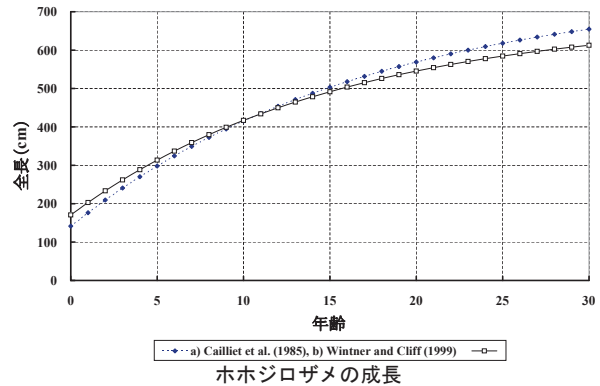


ホホジロザメ 日本周辺

Great White Shark, *Carcharodon carcharias*



Last and Stevens 1994



管理・関係機関

絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約 (ワシントン条約、CITES)

最近一年間の動き

世界的には、特に目立った動きは見られなかった。全般に日本周辺での出現報告は少なく、2006年以降は出現が確認されていない。

漁業資源の動向

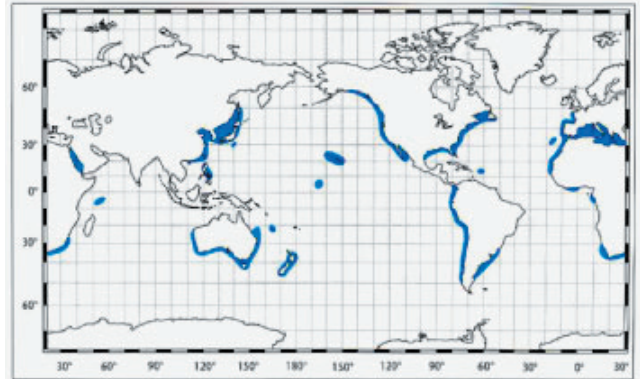
文献や新聞等に記録された本邦周辺海域の本種の年別出現数を見ると、過去50年間にわたりほぼ均等な頻度で出現が記録されている。1992年に12件、1993年に6件の報告があるのは、1992年の本種による事故でマスメディアの関心が集まった結果、例年よりも熱心に報告されたためと考えられる。

生物学的特性

- 寿命：おそらく20年以上
- 成熟開始年齢：雌12～14歳、雄9～10歳
- 繁殖期・繁殖場：2～3月・沖縄、4～5月・南西日本沿岸域
- 索餌場：熱帯・温帯の沿岸域
- 食性：硬骨魚類、さめ類、哺乳類、海鳥、ウミガメ
- 捕食者：シャチ

資源状態

ホホジロザメを漁獲する漁業はなく、本種資源を定量的に分析できる資料はない。全国の定置網に偶発的に迷入した記録等があるのみである。



管理方策

本種が絶滅の危機にあるとして、2004年のワシントン条約第13回締約国会議では、附属書掲載がオーストラリア、マダガスカル共同で提案され、採決の結果、附属書Ⅱ掲載が採択された。我が国には本種を目的とした漁業はなく、積極的な漁獲努力は行われていない。

利用・用途

鰭はフカヒレスープの原料に、肉は食用になる。また歯や顎が工芸品にされ高価格で取引されるが、我が国ではほとんど利用されていない。

資源評価まとめ

定量的に分析できる資料はない。

資源管理方策まとめ

- ワシントン条約附属書Ⅱへの掲載
- 情報収集システムの確立が急務

漁業の特徴

わが国に本種を対象とする漁業はなく、漁獲情報は不明である。まれに定置網に迷入する。

ホホジロザメ (日本周辺) の資源の現況(要約表)

資源水準	調査中
資源動向	調査中
世界の漁獲量 (最近5年間)	調査中
我が国の漁獲量 (最近5年間)	年間数尾～数十尾程度の迷入?